

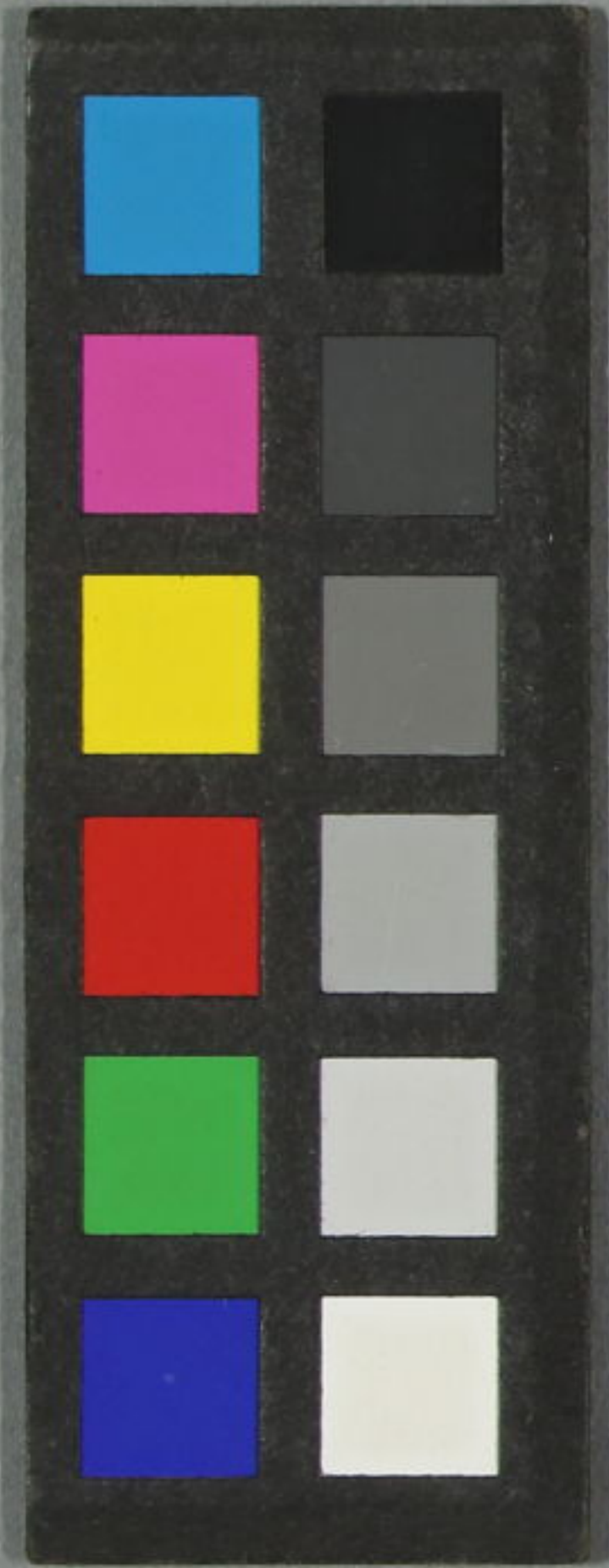
第三

俳林良枝集

夏上

春夏秋冬
八卷之冊

^ 5
1257
3



雙雀菴冰壺翁撰

俳林良枝集

夏ノ部
二冊

書林

金生堂

5
1257
3

枕書の家にこの書得たりと云ふは
そののりいりたるは俳林の旨に
かゝるるより一書をなすは
松より一書をなすは
ふふ凡そ悉くをわたり
ちんちんい良材の
られつるは
そののちるふは

くえんしんしんしの身はくく
 子よき縄はくく

お政六はく

お中の

おの

お坊

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the name 'Shimizu'.

夏之部題目録

乾坤之部

四月	一	卯月	二	大矢敷	八	おまは	九
梅天	一	小満の節	二	法和の天	八	短夜	九
明易夜	十	夏の秋風	一	扇	九	扇	三
日傘	世一	夏山	一	八夏の海	一	扇	九
端午の節	一	重五	一	扇	一	扇	九
葛蒲刀	一	葛蒲懺	一	茶玉	一	扇	九
胡掛ノ胃	一	印地歩	一	茶玉	一	扇	九
梅の雨	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
黒船	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
因六有	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
小暑の節	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
炎天	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
天鰐ノ首	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
休婦人	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
納涼	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九
雪の峰	一	五月雨	一	茶玉	一	扇	九

清水
秋返

植物之部

麦薊	十	牡丹	九十四	夏の草	百二	秋の草	百五
燕子花	十一	羊蹄花	反生草	芍薬	百二	夏の花	百六
風車花	十二	夏の花	蓮花根	白及	百二	夏の花	百六
菅の草	十三	夏の花	蓮花葉	夏の花	百二	夏の花	百六
茶花	十四	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
蕨	十五	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
石菖蒲	十六	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
鈴花	十七	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
薬草	十八	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
美人草	十九	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
山草	二十	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
櫻桐の花	廿一	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
	廿二	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
	廿三	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六

夏目一

井の子	廿四	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
薔薇	廿五	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
夏の花	廿六	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
百州我	廿七	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
申酉の花	廿八	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
百合	廿九	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
花の草	三十	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
木矢柳	卅一	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
天蓼	卅二	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
菟	卅三	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
学名蚕	卅四	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
五月湯脚	卅五	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
青梅	卅六	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
花梅	卅七	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
早乙女	卅八	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六
青田	卅九	夏の花	夏の花	夏の花	百二	夏の花	百六

終焉山	唐函山	親善山	八十	舟舛
津島系	慈田系	巖島系	八十一	時望島系
山王系	赤心寺懺法	徳園信府系	八十二	伊勢系
博多系	志波寺系	坐珍納源	八十三	富士系
四手院治	親王作切	雨乞	八十四	愛宕寺治
橋立系	大満之由板	坐平系	八十五	水島月の能
信吉山板	屋崎系	大板	八十六	神板
波州	反裁之板	形代	八十七	芽の輪
及のくら	川社	小唄系	八十八	踏火系
及響系	公事 故夏	擬踏系	八十九	
三	主中供小	青ノ舌云	九十	
因歎意蕭	供早取	批印符	九十一	
艾席	松系系射	鶴の舌去	九十二	
兼湯を浴	危の美	誘射	九十三	
危車	水馬	呉雄給	九十四	
土前ノ鏡	有無白	雷ノ陣	九十五	
神今ノ名	常取	益施末	九十六	

俳林良枝集

夏之部



雙雀庵氷壺編集

夏

〔撰〕左陽ハ南方南ハ任アリ陽系物を任者を討メ夏ノ中ニ反
 八候あり候大ニシテ則宜キ事あり〔三〕反ニ大ナリ系物を撰ビ
 長大ナリ志也るあり〔撰〕夏ハ何ナリ何ナリと云々反ハ何ナリ
 ・赤帝・祝融・朱明・昊天・蒸炒・立夏・仲夏

四

月

・和月・和の和月・博多和月・花月・正陽月・首夏
 ・孟夏・余月和月といふ和の志月といふ之きを撰せるあり
 おまへしおまへしおまへしおまへし

古岳 輪
 古岳 輪
 古岳 輪

箱笥裏の上籠着
白重の布

夏衣

いづれ従ふもはなはた願ぬまらぬ

箱

又名はあはるきやのきうか

由松

起しや衣のくしんくのみま

波路

むく起よまきうしんくのみま

長久雄

あきしんくのみまきんくのみま

花束

きんくのみまきんくのみま

不潔

白重

視る侍よりはくしんくのみま

古嵐雪

氏よりきんくのみまきんくのみま

古頑布

あきしんくのみまきんくのみま

糖月子

竹達の袴やおのくしんくのみま

壺長

まや州のきんくのみま

仙月

やうきんくのみまきんくのみま

月昇

出まきんくのみまきんくのみま

甘茶

卵の花衣

表白重きんくのみま

裕

結着了一日遊ふ高根のきんくのみま

雨山

あきしんくのみまきんくのみま

清水

初めきんくのみまきんくのみま

陳良

何うあるやうに申す申す 下サ 魯水

常盤木の葉も通すふりまき 上サ 糸 終

福の形も通すふりまき 一 休

肉介も通すふりまき 智 也

主水司供水

延 一日五の始り日あを先今日献えふくは六月朔日
よ貢ぐ也

孟夏の旬

延 一日五の始り日あを先今日献えふくは六月朔日
トよ仲酒をたむ政を先一日長あり二献の後角をこら

ふふ角の神を
真らるるあり

筑摩祭

一日或ハ初年の日と云く近江のふ筑摩の庄筑摩社此神ハ
食を掌るふより百里女婚を則系祀は錫釜を載り

神よなるあり不幸サ社の岡は糠とあせハ止るを得ま改嫁
を再嫁の若二枚を相三徳の若ハ三枚を用て神奉の後後まを

云々秘つてまハ近に國做ある際よ何事妻と云要あり
甚中曲よあらしははくまよ云村あり中法の神社あり

徳知の若三枚を相三徳の若ハ三枚を用て神奉の後後まを

かむし流はあしぬやまう錫釜う 下毛 弘 剛

中流いふ身もつておの葉り 樹 石

多賀祭

中年月日の家まハ近にふ大上初多賀大御神
あまありと云く

住吉祭

上神 日持伴位吉
神社あり

稻荷祭

卯日神輿五社出旅安西子出東寺南門の内よ入る此
何らありめ家をこら五社出無名南よ向て中上安區

供給奉幣
あり云く

大矢敷

羊 法在三十三年同登のまぬ毎年四月廿五日杜のまきの節
晴を勿ひまきり

大矢敷 まきりし 風のちのらりぬ
本の中をまきりし まきりし 大矢敷
息つき まきりし 大矢敷
天の代り まきりし 大矢敷
大矢敷 まきりし 大矢敷

嵯峨祭

中夜重宝 向日明神祭 辰・久世祭 申巳

清水地主祭

九日 當麻法事 十四日中夜重宝の忌日

江州八幡祭

申 午安天神祭 午日正

土塔會

十五日天王寺 菅ノ官祭 申年 花供 廿一日

神祭

忌 神祭忌 神取 神祭忌 神取 神祭忌

日光祭

神祭 日光の祭 神祭 樹々の志 神祭

日光の祭 神祭 樹々の志 神祭 菅ノ官祭 神祭 花供 神祭

松前渡

獲 古昔の南紀伊渡り 獲 古昔の南紀伊渡り

あは四月梅を山岸に九月を限りは帰るま
依り返をみる上を秋とす云云

秋のこころやさきも能き日和 葉粒

あつあつ遊風の吹く水も清し 伏席

神風やねなく雲の帳のたぐり 氷壺

梅天

暮夏の天象
をいふあり

小満節 四月の
中あり 和清の天

文
源 和
清

梅
の
り

短夜

短夜や暮も候むく水白

乙也

短夜の月ものこころやせむら意

山子

くろく夜と見ゆふや宮をくろ

田采

短夜やけ燈む希一舟の色

溪翁

くろくくは仕合ふ夜や雨のこころ

瓢池

明易

明易き夜の末よそや遊の思り

芳州

あき夜の候り雲をさし明やき

下
氷海

あきあき夜よ年とや叶の風

故屋

麦の秋風

・麦秋山満節の
本あり

麦秋や掬のくろくき海舟

古
秀外

麦秋やくろく廣河は猫むらり

童
海路

麦新

畑ありま刈のくろくくふ麦う葉

葉
吹

牡丹

湖・牡丹の州・牡丹の郷・牡丹の園・牡丹の園
牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園
牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園
牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 蕉 雨

牡丹

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 棠

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 棠

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 棠

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 棠

牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園・牡丹の園

古 棠

芍薬

芍薬の園・芍薬の園・芍薬の園・芍薬の園

古 碩 布

茨の花

茨の花の園・茨の花の園・茨の花の園・茨の花の園

祖 紹

茨の花の園・茨の花の園・茨の花の園・茨の花の園

菓 欣

燕子花

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

龜 綱

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

仙 舟

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

田 菴

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

香 以

燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園・燕子花の園

香 以

雨ありのまゝうらふまゝに花を子に
 杜若雨よりうらふまゝに花を子に
 布きくまゝ水節法一 杜若 下十條
 水より清くをけりて花を子に
 水河の邊きほせやうけりて
 催うらふまゝに花を子に
 獨り草の眼先よこまき花を子に
 名実のあつた花を子に
 仲起のあつた花を子に

葵草

・二葉叶
 ・葵うらふまゝに花を子に

白及

和名 葉を茎をまゝに葉をまゝに秋葉よけりて開く花を子に
 漢名 白及 花を子に

蕙

和名 葉を茎をまゝに葉をまゝに花を子に
 漢名 蕙 花を子に

風車花

和名 葉を茎をまゝに葉をまゝに花を子に
 漢名 風車花 花を子に

葉を子に
 花を子に
 葉を子に
 花を子に

茶先草

昔のよ次草の阿や茶先草
十條

玉卷葛

玉卷葛一草のよ次草の阿や
松頂

玉卷
芭蕉

玉卷芭蕉一草のよ次草の阿や
葉欣

玉卷芭蕉一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

紫羅傘一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

著莪一草のよ次草の阿や
葉欣

茶挽草

を挽くう草
依て此名有り

圃鳥麦也一名莖麦田畑よ自生を苗葉小麦よ似てく
小見種細く小見種粒を爪の上よのませ八旋出まらう草白

神のめり又葉ありやをく州 菓欣
体くく風のくちくをく花 下サ庭花

まらる粒をおくくろくや茶挽州 龍騎

影の草くくや西日の茶挽草 優く

柏散

貞臣没友あり又一説
秋ありの依伝存増

葉のくえく葉くく庭の柏の形 下サ骨玖

申はり葉はくくやまをそ柏ちる 命文種

柏ちる日けり 温泉湯の厚着う丸 花海

葉中よくくやちるの柏の形 柏竹

卵の花

●考く●卵木
●葉根卵の木

さくくくまき卵のまけ白く葉 由登

卵のまやむく白くくくくの毛 葱玉

又はめま卵のまきく葉よ本り 連歩

卵の花やまきくまきく理の明里 鳥芸

うけまや卵はくく他む門の川 鳥芳

卵のまやまきくく遠ま木 小毛文藝

舟のそよ鼻実さむや繁き馬 下玉法

國是味より雨ふる音

たせよのし舟のまじくとも雨の山 葱玉

桐の花 音のちもあつたまきり桐の花 右 尚白

は還へりし海向ありたりの花 上 葉堂

近うをへ葉よりくをりり梧の花 音 柳圃

里の名は是えあまよきりの花 海之

若楓 葉柳しるよ音の河るるり記代 右 蒼地

前くをへ酒く井の水や葉柳 実路

あまの人のしるまのまきりや葉柳 素月

こころ葉は秋をさせりりその柳 毛 ぬ 水

飛ぶるまの羽のせやそのわく了 舟 磨

あまをえりまきりやまほくつり花 上 静 丈

旅よりまきり海ありふよ倉むもる 下 玉 頑

若葉 雨近し毎皮のまよこの葉のま 由 雲

昭の上は雲吹をうふ葉葉のれ 音 葉 以

昇る日の白しよくまのこの葉は 音 柳 什

朝のまの穂よ冷くまきり花をのれ 上 井 堆 雲

秋もやあ葉をいへるも 眼のさゆる
 枝よりさへもて庭木のあ葉より
 むらあ葉をいへるも 葉のれいゆ
 やささうさへもて 雨のそのたて
 目をさへもて 霞も 枝ぬ 梅 葉
 湖のいへもていへるも 葉のうゆ
 あ葉のいへもていへるも 梅 葉
 めあさへもていへるも やもてあ葉
 葉の目よもていへるも 柳のそのたて
 雪 葉

若葉の花
 りら表をいへるも 葉のいへるも
 花あくも娘 接種のためあ葉
 ゆあれもいへるも 清きそのたて
 境内のさへもていへるも 葉のいへるも
 横をさへもていへるも 葉のいへるも
 めあさへもていへるも 葉のいへるも
 水のいへるも 影をいへるも 葉のいへるも
 秋もやあ葉をいへるも 眼のさゆる

若葉の
紅葉

若葉のまきりや紅葉のをきり 下サ 魯水

若葉のまきりや紅葉の遠くの葉 下ハ 閑富

若葉のまきりや紅葉のまきり 下ナ 左印態

若葉のまきりや紅葉の紅葉 下ニ 仙月

若葉のまきりや紅葉のまきり 下ヒ 菓欣

若葉のまきりや紅葉のまきり 下フ 祐之

若葉のまきりや紅葉のまきり 下ク 渭水

若葉のまきりや紅葉のまきり 下ケ 仙月

若葉のまきりや紅葉のまきり 下コ 仙月

病葉

病葉のまきりや紅葉のまきり 下サ 魯水

病葉のまきりや紅葉の遠くの葉 下ハ 閑富

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ナ 左印態

病葉のまきりや紅葉の紅葉 下ニ 仙月

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ヒ 菓欣

病葉のまきりや紅葉のまきり 下フ 祐之

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ク 渭水

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ケ 仙月

病葉のまきりや紅葉のまきり 下コ 仙月

病葉のまきりや紅葉のまきり 下サ 魯水

病葉のまきりや紅葉の遠くの葉 下ハ 閑富

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ナ 左印態

病葉のまきりや紅葉の紅葉 下ニ 仙月

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ヒ 菓欣

病葉のまきりや紅葉のまきり 下フ 祐之

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ク 渭水

病葉のまきりや紅葉のまきり 下ケ 仙月

病葉のまきりや紅葉のまきり 下コ 仙月

草木の茂

草木の茂る里のまきり 下サ 魯水

草木の茂る里の遠くの葉 下ハ 閑富

草木の茂る里のまきり 下ナ 左印態

草木の茂る里の紅葉 下ニ 仙月

草木の茂る里のまきり 下ヒ 菓欣

草木の茂る里のまきり 下フ 祐之

草木の茂る里のまきり 下ク 渭水

草木の茂る里のまきり 下ケ 仙月

泉のほとりへ出でては葉の切跡
芳州

波のうらやまのむらさき色けり
スガ川 一室

夏木立 結葉

此先よ里のり物ありて夏木立
露聲

夏木立一人退き日ハ暮るる
雨真

流のうらやまのり物ありて夏木立
巢吹

さあけよ人あきせむ新樹あり
漢高

流のうらやまのり物ありて夏木立
控筆

葉さくらや花さくら人の出づる日
古道

葉櫻

新樹

葉さくら花さくら人の出づる日
龍成

葉さくら花さくら人の出づる日
松漢

下等花の物ありて夏木立
古道

花のうらやまのり物ありて夏木立
重相

下等花の物ありて夏木立
古岩

常盤木の大きき葉ありて夏木立
古乙

常盤木の大きき葉ありて夏木立
下外

常盤木の大きき葉ありて夏木立
一止

葉柳や花柳の物ありて夏木立
水高

葉柳や花柳の物ありて夏木立
水高

葉柳

常盤木の落葉

木下闇

新樹

美人草

夏あり
但師説

のま橋のしあや草よある草うれ

唯 恒

増説より河の草のちひさねをもちり是もあつ又眉
作りの花をもちり是もあつ又眉作りの花をもちり

咲よりあや草よの河の美人草

渭水

繡毬花

風花を作る子繁一花は花集りて
手やりよあや

あやの枝を時と捨たり手やり花

粟 吹

みよりあやの枝よ花をもちり花

優 々

抽の花

抽の花や枝よあや草よ花集りて

古 呼 牛

ひと枝よあや草よ花集りて

古 夢 古

枳殻の花

あや草よあや草よ花集りて

西馬

えを抽の花よあや草よ花集りて

誠 之

降よりあや草よ花集りて

賢 外

出よりあや草よ花集りて

葉 樂

恒よりあや草よ花集りて

粟 吹

鷹爪

鷹爪のあや草よ花集りて
花集りてあや草よ花集りて

古庭の鷹爪や何のちのち州

花 法

あや草よあや草よ花集りて

葉 樂

花の色は白くして葉光輝の輝くもの
葉は

花は白くして葉は緑色のもの
花は

鐵線花

二月苗宿根より生きたり
花は白くして葉は緑色のもの

花は白くして葉は緑色のもの
花は

花は白くして葉は緑色のもの
花は

白丁花

庭花より花柄を一つ取り
花は白くして葉は緑色のもの

花は白くして葉は緑色のもの
花は

麥門冬

葉は白くして花柄を一つ取り
花は白くして葉は緑色のもの

花は白くして葉は緑色のもの
花は

山苜の花

葉は白くして花柄を一つ取り
花は白くして葉は緑色のもの

花は白くして葉は緑色のもの
花は

厚朴花

葉は白くして花柄を一つ取り
花は白くして葉は緑色のもの

要の花

葉は白くして花柄を一つ取り
花は白くして葉は緑色のもの

九月十九日
勢多

練堀の内や家の花ひく木 三

藪 椿

花をもちき(和)女貞和名右豆の木は女貞は木
梗拾須三毛知の木氣梓木をき

城も寺のつくくふあまき藪 椿 下サ 三 郎

らくんせふ木あうもき 藪つをき 花 月

藪つをき茶売もくいてんてんを 由 儀

ねくわりの花よけゆめく藪つをき 菓 次

櫻欄の花

くえもくうら奥はる庭や櫻欄の花 常 晴

墓よみて稼うる堂や櫻欄の花 久 榮

毎日の雨ふきくくも櫻欄の花 由 儀

まろの花保へくうぬ帯うめ 甘 菜

まごもやう板を新や椿の花 素 心

まき葉のらまきて美し櫻の實 花 喰 子

花付くくえくやうあうまの實 不 二 丸

あきくををおきしの種や櫻の實 庭 花

花も葉もあめは後あうまのうめ 園 水

櫻の實えくあきくまの葉出りぬ 溪 菊

櫻の實

折の花

山 藤

朝のふりそ暮のすそを梅の、実
 霞のふりそ暮のすそを梅の、実
 鐘つきの梅をくさすや梅の、実
 梅や定家松のおきよき路
 竹の子やともよの体よ何の芳
 筆の土産やおもひきぬうち
 鶯の子
 鶯の子は何れをいつく住居
 鶯の子は何れをいつく住居

釣 葱

夕月の常きふきや 釣志のふ
 夕月の常きふきや 釣志のふ
 夕月の常きふきや 釣志のふ

岩 梨

後肉江東よていけるあーと云山丹志のすそをうけ生を苗のすそを
 二三寸地より一きり生を二三四月葉のすそをうけ生を苗のすそを
 小児好む味甘酸

蓄 薇

風花の考屋より一用より小きく葉ハ
 石草より小きく
 岩梨や近所のまきふきの板
 優く
 水
 山子

路

竹むくやまきふきの葉ハ茂るなり
 山子

花海

不二丸

由係

蓼

利根子

人多のうらみおろし 蓼の味 多の女

蓴菜

蓴菜や水をたてて 水能味 古 正房

引取ると江戸の産物 蓴の味 古 尚白

蘭の花

蘭の花の影のさくら角 糖 分黄

さくらもあつて 花咲古 種好

郭公

郭公の花はあつてもういふも夏あり・山時香・四季の田長・くさりの子親・不ぬ帰・動農も香

あつちのついでをのうらみおろし 魚 魚 藤

あつちのついでをのうらみおろし 古 棠

あつちのついでをのうらみおろし 十 條

あつちのついでをのうらみおろし 其 仙

あつちのついでをのうらみおろし 茶 堂

あつちのついでをのうらみおろし 花 太

あつちのついでをのうらみおろし 三 九

あつちのついでをのうらみおろし 教 之

杜鵑啼き雀の夜ぬく水 範成

雀をよめる人よてんきき 上毛 慈孝

澄澄と何をたてもや不ぬ得、為得

深山路をいつもふせ 三 杜宇 三 三浦女

鳥草よるのきりて 三 鳥草 三 葉操

閑子鳥

出づる鳥と云山林と棲る人家は遠つり其俗より親の物ありと云者遠くはるき夢のまじき一うを寐

又いづり 古 閑子鳥 古 閑朗

閑古 古 閑子鳥 古 閑朗

雅公

見おろし 古 閑子鳥 古 閑朗

雨の目 古 閑子鳥 古 閑朗

伏せ鐘の鐘 古 閑子鳥 古 閑朗

又 古 閑子鳥 古 閑朗

鳩 古 閑子鳥 古 閑朗

及 古 閑子鳥 古 閑朗

あ 古 閑子鳥 古 閑朗

鶺鴒 古 閑子鳥 古 閑朗

古 古 閑子鳥 古 閑朗

宿 古 閑子鳥 古 閑朗

鶺鴒

鶺鴒 古 閑子鳥 古 閑朗

鹿袋角

鹿庫の角を煮て鹿角を煮る。夏長古

つる色のしつれふし布や故喰を 冬 玉

このやういふやういふ鹿の角 氷 壺

翡翠

夏も秋もあつ

古池や翡翠のしつれ 祖 師

川せうや飛らるる鳥をよ 玉 碩

翡翠や日あま日あまを 長

川せうやゆらゆら 芝 董

翡翠やあまのあまの 久 茶

夏は七

通鴨

川せうや絶つ風をき 江の柳 下 毛 一 龜 接 泉

日のあまの方よ遊む 鴨 接 泉

老鶯

峰々ある湖水の廣く 鶯 接 泉

あまのあまのあまの 其 則

飛蟻

あまのあまのあまの 其 則

飛蟻

あまのあまのあまの 其 則

このやういふあまのあまのあまの

あまのあまのあまの 其 則

蚊 ユ

薄 ヒラ

蚊の薄を言ふは薄きなり其上の薄は薄きなり
つらつら 蚊のなり

蚊

日よすせの葉の裏よりかき落るれ 連里子

是のうらうらな用三十一えしらび 氷

蟬の子 カサメ

卵あり

蟬の属しては大ききものあり其の両脚長きるし尺余五六
寸甲葉子をまきまき 雙 蟬の子は六つと老の外振の下り

枝蛙

枝蛙多くや木の葉の下の入る 上 五英

見まきやせふふらなりを枝蛙 下 種好

鳴くもやの鳴く 静や枝蛙のなり 巢飲

蚊の子

新垂のやむいなりあり 枝蛙 上 ノ左

蚊の子はよくある雨の初つと 下 種飛

蚊の子はちりてくくく 葉子 下 ト外

蚊の子はよくある雨の初つと 下 雪山

蚊の子はよくある雨の初つと 下 如白

蚊の子はよくある雨の初つと 下 相鳥

蚊の子はよくある雨の初つと 下 鳥芸

蚊の子はよくある雨の初つと 下 在糸

蚊の子はよくある雨の初つと 下 節之

初鯉

鯉釣

仕合や新母よりくく初相魚

生 節 扇

波を起るいまむしと見えぬ松魚舟 素我
 滑り好き浪居海遠しと云松魚 左眠
 吹くより雪もあきあり初うらを 羨交
 老のまゝ提へお合ぬ松魚うら 上毛 物珍
 初松魚はむかしきを思ひいふ事 上毛 終巻
 逢うもやて買人のけしむ松魚代 上毛 白外
 兼むれん人のあがり初うらを 上毛 仙友
 生るやあはらうやうと望む事 上毛 佳節
 夕けしき扇あらしと通うら望 上毛 狐付

水踏り望をよめる人の扇うら 上毛 巻城
 物し扇や兼む事とあはら 上毛 不由
 雪のしらぬとまじしき扇うら 上毛 葵史
 初うら雪をよめる後のまや白扇 上毛 常晴
 きり傘の下や扇のきむあり 上毛 有隣
 夕やあやのまじしき扇うら 上毛 五風
 物あは扇をとりし松魚買の事 上毛 圃涼

團扇

たしとあまの巻扇きしや門中

一具

汗をうへて木を見ゆつて巻扇

龍水

垣越よきもの穿ゆるうちまう

精中

是うとくふふふふり濃巻扇

葉波

巻扇まきゆつりてまや中庭

スルカ

見取

木布

麻布葛布着布等の曝さるるものを生布と云
生布と云

平日若くしてまきけあま木布

ムシ

其泉

汗取

汗取や舟を結ぶのひま午

孤竹

汗拭

汗拭木のう人やあまあま汗ぬく

然池

幌

あしら地へまき汗あまあまあま

葱玉

あまあま心の垣や幌印

鳥以

幌屋をまきあまあまあまあま

古

田人

あまあまあまあまあまあま

草城

あまあまあまあまあまあま

古

志考

あまあまあまあまあまあま

古

美里

あまあまあまあまあまあま

唯風

あまあまあまあまあまあま

古

朝陽

あまあまあまあまあまあま

謙之

蚊帳

日傘

浅茅沖や日傘の下は雨やうり

色淵

旅人の日傘さしあむ都うり

古西馬

堤の荷を新着てうりき日傘ぶ

いね字

うりむきあまのふんの日傘うり

葉欣

鮫

いひききーいさあめさきー
ふあききーいさあめさきー

やうの舟のききらるる船の自ひうれ

由係

やうあまのききらるる船の自ひうれ

色淵

いひききききききききききき

古雪里

船よあまのききらるる船の自ひうれ

潮月

新茶

いひききききききききききき

尾村

いひききききききききききき

山子

いひききききききききききき

葉松

いひききききききききききき

鼎在

いひききききききききききき

芭磨

いひききききききききききき

氷壺

いひききききききききききき

菊

いひききききききききききき

葉欣

麴ひた

古茶
初熟麥アヲカレ

麦のり（あ）

新麥 冷汁 煮冷 干鰯 塩烏賊 蟹 鯢

麩や巻の言より出せ 往古
新麦やしき畑を別 儀 桐左
冷汁やおまじくの向後 手 狐什
煮きりや算のらるる水の中 鱈岳
干がせのくけぬ希るる海流の面 古 津流
塩烏賊をめらるるや 東人 下 忍成
蟹の酒もまゝぬ巻に 上 高巻

冷麥

冷の言より出せ 秋よ出せ

冷麦や花波のうらるる後めめ 翠二
新麦や海ののをらるる 極 松條
冷麦や居り盡し 後 下 其岳
冷麦やまゝ居る 水の色 加七
新麦や中の新なる 家 子 竹文
新麦やまゝ居る 毛虫 虫 外
新麦やまゝ居る 毛虫 虫 外
新麦やまゝ居る 毛虫 虫 外

毛虫

新麦

棒振虫

子又や世よまむとあはれ
 子又の夜紅もあはれ
 持よりやう風うけさるる
 蚊柱やうと神あまのつら
 人またあはれ蚊の鳴る
 志しゆくも人よへく蚊の
 業を蚊の出すこの蚊の
 雨の蚊や只鳴るあはれ
 波打つておさらるる蚊の

素山
 吟風
 古梅間
 控筆
 石部
 由登
 尾村
 稻濤
 波濤

蚊

蚊遣火

蚊遣火
 蚊の遣火や雨よあはれ
 舟をむくへる遣火やう
 家あはれとくうもあはれ
 暑き遣火をうしぬ遣火
 川風のよき位な遣火
 蚊遣火黄あはれ遣火

連里子
 乙也
 水海
 雨具
 漢高
 漁蓆
 不潔
 森久権
 種好

ハトリクモ
蠅 虎

蛭

蚯蚓出

蚋

蚤

降雨よあまりののちむ蚊をうき 下ナ 司玩

場もうき蠅を蚊のこころ水 水 意

田の蛙や水うき世のあまを 孤 竹

ぬき足よついで上りぬ小田の蛙 下 文志

出る昔を知りもそのき蚯蚓 佳 若

是問ふも居るもあまのき 由 儀

蚋飛や藁着くすの畑成り 菓 欣

寝室をくへよせもや蚤起し 古 一具

世の夢と悟せも蚤のいそぎ 甘 茶

汗の蚤し編くすりや名取川 葱 玉

おもきものゝ蚤よ寝る世は舟泊 草 字

寐る居ても日和を蚤よまを 石 磯

蚤をくつ子の多き世 柳 圃

蠅をうつり名ををし 漁 蓀

物を待たうや見ても居る 波 瑠

ひきこもる 文 鱗

蠅よ居をふり 海 珠

蠅亦や蚤の対斗を 味 風

蠅

蝸 蜒
牛 蛭

這はらうまき中一跡をあらわす
何し遠くおちるもよりの蝸牛 主 芹舎
蝸牛園一のまむや藤のまき 古 梅室
まきりの中一跡のふたうらあり 魯 心
角をたぐりまき藤一の跡うらあり 金 湖月
接婦うらまき角出まきや蝸牛、 茶 晴
まきり日を我世あらうらうらあり、 松 溪
神崎のあまや地をまき蝸牛 由 像
角うらまき中一跡をあらわす 巢 欣

鵜

・鵜飼 鵜舟・鵜縄

物うらまき遠くおちるもよりの 小 尾 後 麦
まきりまきあまや地をまき鵜舟うら 溪 鳥
鵜飼舟月のまき湖へまきうらあり 田 像
遠くまきり湖まき鵜川の跡 光 邦
まきりまき田畑まきまき鵜飼うら まき二
まきりまき海まきまき鵜川一まき 権 飛
まきりまきまきまきまきまきまき 後 麦
まきりまきまきまきまきまきまき 天 灌 河

青鷺

青鷺の出てゆく城の夜明けの光

青柳

青鷺の出てゆく城の夜明けの光

素山

結夏

要佛衣の夏十五日入りたる日をきつて夏と云七月十五日終る日を解夏と云ふなり此日九日安居しを外子生を

州本虫の類をいふ佛人ありて

安居

形安居期は位を居るは経釋よ妻一

月のよき日といふは安居の礼 茶枝る

食するは安居のつきて安居の礼 毎文種

月花も忘る人のあはれの手、盛月

羨望も人の子のけを安居の、三州

夏行

懐きの形もあはれき夏行の礼

如白

夏入

夏入の礼もあはれき夏入の礼

士教

松風も耳をききし夏入の礼

管成

茶のついで雨もあはれき夏入の礼

空風

赤きついで我もあはれき夏入の礼

如春

夏籠

夏籠の礼もあはれき夏籠の礼

夏籠の礼もあはれき夏籠の礼

沛風

夏籠の礼もあはれき夏籠の礼

由儀

夏籠の礼もあはれき夏籠の礼

空以

夏書

潜上不也... 反重... 魚

地の子に... 岩

いより... 等

水... 猪

... 菜

茗草

茗草... 長く... 葉... 根... 茎...

お生... 伸... 泡

藜

... 葉... 藜

... 葉... 初

... 葉... 雨

... 葉... 遊

... 葉... 紅

... 葉... 月

夏野

... 葉... 梅

... 葉... 花

夏山

... 葉... 曲

夏海

竈のつらきつらあり 思ふも目のおもひ 昇る目も痛くあはれ 目くらしのたえま 糸摺る飛鶴は 舟載の遠くへ 空より名も 舟のつら 舟のつら	古 古 古 古 古 古 古 古 古	水 在 左 無 得 祖 水	水 在 左 無 得 祖 水
---	---	---------------------------------	---------------------------------

雲那の那那那
 水に鏡を映す
 舟に舟を乗せ
 舟に舟を乗せ
 舟に舟を乗せ
 舟に舟を乗せ
 舟に舟を乗せ
 舟に舟を乗せ

舟のつら

中興墟郡

西塚邑

石里堂